

2026年度東大リスニング設問別分析シート

東大専門敬天塾分析	PART(A)					PART(B)					PART(C)				
	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)
設問文のキーワード初出付近に解答根拠	○	○	×	×	○	○	○	×	○	×	○	×	×	×	×
選択肢群読み取り難易度	並	並	並	並	並	並	並	並	並	並	並	並	並	易	並
似た選択肢を並べている	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
選択肢間における論点(議論内容)が異なり高負担	×	○	△	○	○	×	×	○	△	×	○	×	○	×	○
選択肢群キーワードと本文中の表現乖離度	△	同じ	特大	ほぼ同じ	大	大	大	大	特大	特大	大	特大	大	△	大
設問文/選択肢のキーワードが本文に複数点在 OR 解答根拠が本文中に分散しているため情報統合をしないと正解することができない	△	×	○	×	×	×	×	△	△	○	○	○	○	○	○
総合難易度	並	易	難	並	並	並	並	並	難	並	並	並	難	難	並

- △ 顕著な訛りの音声はみられなかった。歴史や生物基礎の素養があれば常識的に解ける問題が4問あった。素養がなければ体感難易度は上記より跳ね上がったはず。
- △ TRUE型の設問が6問も登場したため、選択肢を事前に丁寧に読み込む必要性が高かった。下読み時間をしっかり確保できたかが鍵だった。
- △ 「設問文のキーワード初出付近に解答根拠」がある場合、下読みでチェックしておいた語句に全集中すれば、その前後の放送英文が答えになり難易度は抑えられる。
- △ 「選択肢読み取り難易度」は、文章量や使用されている語彙レベル、扱われている内容の難度などに基づき判断。「易」であれば下読みがスムーズにできる。
- △ 「似た選択肢を並べている」場合、読解負担は軽くなるが、その分、時間に追われ焦って読むと混同しやすいのでポカミス率が高くなる。
- △ 「選択肢間における論点(議論内容)が異なる」場合、選択肢の下読みや英文放送の段階で情報整理に手こずりやすい。
- △ 「選択肢群のキーワードと本文中の表現乖離度」が大きい場合、放送英文の単語だけを拾い聴きしている受験生にとっては鬼門となりやすい。
- △ 「解答根拠が分散し情報統合」の必要性が高い場合、100~200wordsに及ぶ複数段落にまたがる内容を脳内で整理できていないと得点しづらい。